

# 稲美町総合教育会議 会議録

(令和6年度第1回)

1 開催日時	令和6年10月24日(木)	開会 13時30分
		閉会 15時19分

2 開催場所 稲美町役場303会議室

## 3 会議に付した事項

### 1. 開会

### 2. あいさつ

### 3. 協議・調整事項

(1) 稲美町史編さん事業について

(2) 不登校児童生徒への支援について

(3) 子どもの読書活動推進計画策定について

(4) 中学校部活動の地域展開(連携、移行)について

(5) 第4次稲美町教育振興基本計画策定について

(6) 自由討議(口頭での意見交換)

### 4. その他

(1) 次回開催予定について

### 5. 閉会

#### 4 構 成 員

稲 美 町 長		中 山 哲 郎
稲美町教育委員会	教育長	北 谷 錦 也
稲美町教育委員会	教育長職務代理者	後 藤 哲 夫
稲美町教育委員会	教育委員	本 多 澄 子
稲美町教育委員会	教育委員	高 田 道 夫
稲美町教育委員会	教育委員	松 田 緑

#### 5 事 務 局

経 営 政 策 部 長	井 上 勝 詞
経営政策部企画課長	岡 野 耕 平
教 育 政 策 部 長	沼 田 弘
教育政策部教育課長	奥 陽 一
教育政策部教育課学校教育担当課長	稲 葉 寛
教育政策部教育課管理担当課長	前 田 浩 二
教育政策部人権教育課長	瀧 口 泰 広
教育政策部生涯学習課長	赤 松 嘉 彦
教育政策部生涯学習課スポーツ担当課長	中 澤 秀 俊
教育政策部文化の森課長	中 嶋 聖 仁

#### 6 開 会

司会(井上経営政策部長)

それでは定刻となりましたので、只今から令和6年度第1回稲美町総合教育会議を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、経営政策部長の井上でございます。よろしくお願いいたします。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、地方公共団体の長が設ける会議でございます。

本年度は、本日を含めまして、計2回の開催の予定でございます。なお、会議内容等の詳細につきましては、後ほどご説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、中山町長からごあいさつをお願いいたします。

中山町長

皆さん、こんにちは。お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。平素は、教育そして芸術文化の発展にご尽力いただきまして厚く御礼申し上げます。

さて、やっと秋らしくなって参りました。町内の小・中学校でも、運動会・体育祭・文化祭が開催されました。稲美北中学校の文化祭で午前中、2年生、3年生の合唱を聴かせていただきました。素晴らしい歌声で一人ひとりの心と体が良い方向に成長していると、クラスが本当に一つになっていると感じました。これも学校の先生方、そして地域の皆様方のお陰であり、深く感謝しております。また、今日は保護者の方がたくさん来られていました。多くの愛情を注がれているのだなと感じました。

令和6年度は、多様な事業の実施をしているところでございます。

不登校の支援や町史編さんも進めておりますし、教育環境の整備も進んでいるところでございます。そして、少子化の問題や暑さ対策などへの課題をしっかりとやっていかなければいけないと思っております。

今日この会議の場で、いろいろなご意見をちょうだいしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

司会（井上経営政策部長）

続きまして、北谷教育長、ごあいさつをお願いいたします。

北谷教育長

皆さん、こんにちは。教育長の北谷でございます。

平素は、教育委員会各課の取組にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

先ほど町長からありましたように、やっと秋らしくなったというか、まだまだ平年より気温は高いようですが、町内秋祭りが終わりました。稲美町は実りのよい季節を迎えたと思います。そのような中、先日は小学校の運動会が、雨で延期になりました。中学校の体育祭もそうでしたが、良い顔で行事を迎えて、頑張ってくれている姿を見ることができ、私も非常にうれしく思いました。

また、先週の日曜日、コスモホールで播磨東地区の兵庫教育の日に関するイベントがありました。11月1日を兵庫教育の日として、県内全域で教育関係者だけではなく、地域の方々と一緒に学校教育や社会教育、生涯学習について意見を交換し、それぞれの地域の教育の充実を図っていこうというイベントです。今年から、教育事務所単位で、各地区がイベントを行っています。第1回目を、県内で一番最初に稲美町のコスモホールで行いました。播磨東地域の各市町から様々な取組、教育実践の報告がありました。図書館の取組であったり、あるいは学校教育ではコミュニティスクールとか、今話題となっている部活動の地域連携地域移行について、またその中には子ども達の発表や、稲美町からはコスモンフォニックウィングの皆さん、稲美中学校、稲美北中学校の吹奏楽部の皆さんの合同の

演奏ということで、地域連携・地域移行の取組を紹介しながら、非常に迫力のある演奏を聴かせていただきました。各市町の取組に大いに刺激を受けたところですが、発表を聞いていますと、今日の議題にもなっておりますが、共通した課題が多いなと思っております。

このような時期に総合教育会議を開いていただき、皆さんと意見交換することは、教育委員会事務局にとっても非常に有意義なことだと思いますし、活発なご意見をいただき、これからの稲美町の子ども達、あるいは生涯学習が大いに発展することを祈っております。

司会(井上経営政策部長)

本日の会議の出席者は、別紙「令和6年度 第1回稲美町総合教育会議出席者名簿」のとおりでございます。

会議の構成員は、町長と教育委員会委員の皆様で、事務局は企画課と教育課、人権教育課、生涯学習課、文化の森課が担いますので、よろしくお願いいたします。

当会議の議長は、稲美町総合教育会議規則第4条の規定により、町長が務めることとなっております。また、この会議は、同規則の規定により原則公開し、議事録を作成いたします。

それでは、町長に会議の進行をお願いいたします。

中山町長

規則に基づき、議長を務めさせていただきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、令和6年度 第1回稲美町総合教育会議次第の3. 協議・調整事項について進めてまいります。

まず最初に、(1)「稲美町史編さん事業について」の説明を事務局からお願いします。

赤松生涯学習課長 (資料説明省略)

中山町長

「稲美町史編さん事業について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

今詳しい事業の進行、内容をご説明していただいたのですが、私はそのうちの加古地区の担当としていろんな資料の収集に関わってきました。

全体的なことは今お話しさせていただきましたので、その中で私の感じたことは、例えば、70歳、80歳の方に中学校時代の思い出を話してくださいとか、終戦前、あるいは終戦直後の話をしてくださいと言っても、なかなか話していただけない。多くの人がそういう状態な

のですが、例えば結婚式であれば、昔の婚礼というのは家でやったわけですが、そのときの写真をたくさん撮っておられて、その写真を見て、いろんな人が私のときはこうだったんだというお話をしてくださるのです。写真など何か物があつたら、人間の記憶というのは、湧き上がってくるということが身に染みてわかりました。また、昭和30年代に校長先生をされた方が資料館に提出されたものですが、鼓笛隊の写真が非常にたくさんあったことにびっくりしました。指揮者、大太鼓、小太鼓、中太鼓とその後ろに笛を吹く子ども達が運動場を行進してる姿を見て、ああそうか、こういうものがあつたなど。これはなかなか見ている人にとってはいいかもしれないけど、やっている人、子ども達にとっては大変だったなど、そういうことが湧き上がってくる。何か物があれば、記憶は戻るものです。

それから、例えばここに写真としてありますが、五軒屋の祭り、六軒屋の恵比寿、池の内の「おとう」というものなども、他の地区の人にはあることさえも知られていない。同じ加古でもです。六軒屋で恵比寿さんを祀っていると言うのは知っていますが、自分は1回も行ったことはないのです。そういう地域間の特色というのは、加古の人たちの中でも、そうやったんかという認識でした。昔のことをちゃんと調べるということから、稲美町が好きになる。その好きになる中身が、単純に土地が広々として好きだと。それはそれでいいのですが、もっと昔からいろんな人が工夫して暮らしてきたということがわかるような形でお知らせしたいと思っております。

#### 中山町長

町史の編さんが進んでいるというのは、本当に良いことだと思っています。町にとっても大切なことですし、住民にとっても、忘れかけたものをしっかり整理をして、昔を思い出したり懐かしむということは、本当に大切です。私たち知らない者にとっても、新たな学びにもなりますので、ぜひこの事業をしっかりと進めていってください。

#### 高田教育委員

付け加えますと、現在の稲美町史は非常に立派で、学術的な雰囲気ですが、多くの人は家に飾ったり、ガラスケースに入れる、そういう状態でした。今、作成に取り掛かっている稲美町史はというと、イラストも入れながら、手に取ってちゃんと読んでいただけるように作成しております。

#### 中山町長

学校の授業などでも使える可能性がありますね。活字ばかりではなく、写真やイラストもあるということですので、楽しみにしています。

続いて、(2)「不登校児童生徒への支援について」の説明を事務局からお願いします。

瀧口人権教育課長 (資料説明省略)

中山町長

「不登校児童生徒への支援について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

この不登校の生徒の数というのは、多ければ大変です。私も以前は、不登校の生徒数は、少ない方がいいと思っていたわけですが、学校でも居場所がない、家庭でも居場所がない、あるいは地域でも居場所がないなど、子どもによって状況は違います。どこか居れる場所を作ってあげるということでは、学校の中で居れる場所を作ること、1人になりがちな子に対するケアをしてあげるように、お願いをしたいと思います。そこだったら行けるといふ子どもの数が増えるのも、それはその方向性でいいのではないのでしょうか。

北谷教育長

他の表現がないので、不登校という言葉で表現されていますが、非常に変化が激しい時代ですので、いま数に上がっている子ども達だけではなくて、すべての子ども達が何らかのストレスを抱えて生活しています。それは学校生活だけではなくて、家庭の中でも地域の中でも、それは子どもに限らず、私たち大人も同じです。その中で学校教育のいいところというのは、友達と一緒に、仲間と一緒に学ぶということだと思います。ただそれが厳しい、そこにしんどさを感じる子ども達に対して、学校教育の仲間と学ぶ、少し難しい言葉で言うと、社会性を広げるといふことなのですが、それを広げてあげる場をそれぞれの子に合ったものを周りが準備してあげるということは必要だと思います。稲美町、教育委員会、各学校が連携し、子どもの様子を見ながら、子ども達一人ひとりの成長を支援できる、そういう方向性を研究し、進めていきたいと思っています。この方向で良いと言っていたかと非常に嬉しいです、数の問題でないと多くの方に理解をしてもらえたらと思っています。

後藤教育委員

不登校については、いろいろ原因が取りざたされてということなのですが、ここ、10年、20年を見ている中で、いわゆる研究者が言うには、よくわからないというのが大半だそうです。

小学生だと、自分が困っていることを、言葉にしてなかなか言いにくいということもある。中学校ぐらいだと言えて欲しいんですが、なかなかそれも言えないことが多い。資料の表を見ても、令和2年度、中学校で20人、小学校で8人ということで、全町でこれだけの人数です。過去には30人とか、40人に近いときもあったんですが、令和2年度にやっと20

人に収まるように減ってきたということで、実は喜んだ記憶がございます。そのあとコロナが影響しての右肩上がりです。令和6年度、ちょっと下がって欲しいと思うのですが、これからまたコロナを乗り越えて、令和2年ぐらいまでのところに持っていければ嬉しいです。ただ、最近は社会情勢、経済情勢、政治的な状況を見ると本当に全体的に暗いです。子ども達にしても、将来に対する不安というものが、我々が子どもだったり青年だった時代とは比べ物にならないほど、重く彼らの心にあると考えざるを得ないと思います。敏感な子どもが、内向きになってしまう。将来に夢も希望もない、家庭も暗いし、学校でも暗い雰囲気であれば、どんどん内向きになっていく。自然とというわけではないですが、そういう子が以前よりは多いということは、我々は考えていかなければならないと思います。子どもに寄り添うことで、耐えぬく力、乗り越える力を付けていって欲しいと思っております。

先日、50代ぐらいの人で、かつて不登校だった人たちが集まった会についてテレビで放送しておりました。我々が小・中学校の時の不登校の原因は何だったんだろうと振り返っても、その人たちもわからない。なぜあの頃学校に行けなかったのか、よくわからない。しかし、人生50年を経て、あの頃のことが未だに後を引いているかという、そんなに影響はないというのが結論だと話されておりました。

この時期を何とか乗り切れば、あと、また自分の目標を持って生きる人生が待っているよということで、支援をこれからも続けていただくべきではないかと思っております。

中山町長

子ども達が希望を持てるような社会を作ってあげるのも、我々大人の責任だと思います。続いて、(3)「子どもの読書活動推進計画策定について」の説明を事務局からお願いします。

中嶋文化の森課長 (資料説明省略)

中山町長

「子どもの読書活動推進計画策定について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

高田教育委員

読書活動推進計画の今後をどうしていくかというのが、資料に書いてあるのですが、これだけだったら以前はどうだったのかと思い、第三次教育振興基本計画の中の読書活動の推進というのを調べてみました。そうすると、その時には朝の読書活動をするとか、総合的な学習の時間を利用するとか、あるいは町立図書館、学校の図書館の連携を図るとか、家庭での読書習慣をつけるという、こういう具体的なやり方が書いてあって、どういう方

法でやってきたのかというのがわかるわけなのですが、このページにはそのスケジュールがどういう段階を踏んで、策定していくのかというのはわかるんですが、もう1歩進んで、あるいはもう半歩引き返して、この前の推進計画は、こういうことであったから、それを踏まえてこのページがあると書いてあったら、もっとわかりやすいと思いましたので、今後、この稲美町子どもの読書活動推進計画を進めていただく際に、後ろを振り返りつつ計画を立てていっていただけたらと思います。

中山町長

今日の資料9ページの内容ですが、現時点ではこんなことをしている、またやってみようというものはありますか。

中嶋文化の森課長

委員が言われました、教育振興基本計画から読書活動に特化した計画を策定しますので、これまでの過去の経過として、今後新しく作っていく子どもの読書活動推進計画に盛り込んでいきます。

この計画は今回作るのが初めてですので、経過はありませんが、ここでは、これまで教育振興基本計画の中での取組経過を書かせていただいています。子ども達の実際の現状についてアンケートによる現状調査をさせていただいた上で、これまでどうだったかということを書かせていただきたいと考えております。

北谷教育長

中嶋課長からもありましたように、よく言われる子ども達の読書離れ、子ども達に限らず私たちもそうですが、なかなか本を読まないというようなことになってしまっています。できるだけ子ども達に本に親しんでもらおうという、その取組と同時に、町の図書館では、デジタル図書の導入も進んでいます。私たちの世代ではわかりにくいのですが、今の小・中学生、これから子ども達というのは、ネイティブなデジタル世代ですから、子ども達の読書活動というのも、私たちが考えていたものとは違う本への親しみがある。そういうことも含めて、本に親しんでもらう、そういうもとなるような推進計画をつくれたらと考えています。

中山町長

続いて、(4)「中学校部活動の地域展開(連携、移行)について」の説明を事務局からお願いします。

稲葉学校教育担当課長 (資料説明省略)



中山町長

「中学校部活動の地域展開(連携、移行)について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

後藤教育委員

今、町が目指している方向でいいのではないかなと思うのですが、一番最初に言わせてもらったことなんですが、地域の人達に部活動を任せるという形については、20年近く前に近隣市が実験的に行いました。そのときは、全てを地域のスポーツ団体に任せるという形で行ったのですが、3年ぐらいで潰れてしまいました。

私も部活動をやっておりましたが、顧問の先生の指導ではなく、一般の人、つまり保護者が試合に出ているメンバーに対して文句を言うのを見聞きしたときに、これは大変だな、これでは続かないだろうなと直感的に思いました。監督と保護者との関係の中で、メンバーが選ばれていくとか、とにかく勝てばいいということで、3年生の最後の総体の時でも、1年生で入った子の方が優秀だからとメンバーに入れ、今まで頑張ってきた3年生がメンバーから外れるとか。こんなことが行われていくと、部はもういろんな面で崩れていきます。

地域移行ということなんですが、監督という立場では、教育的にその活動を見ていける先生が居てほしいです。そこに、地域の人が入ったらいろんな面で崩れる基になるのではないかと考えております。町として1つのチームということで良いと思いますが、その辺は考慮していく必要があると思っております。

稲葉学校教育担当課長

先ほどの説明でも触れたのですが、これに関しましては、先進地域からもヒアリング等も行ったり、視察を行ったりしながら良い方法を勉強し、稲美町で生かしていけるものは生かしていきたいということで、手探りで進めているところでございます。今、委員からの発言にあったようなことがないように、しっかりと事業を進めていきたいと考えております。

松田教育委員

地域移行ということで、様々な意見もあると思います。そして、メリット・デメリットあるかなと思うんですが、稲美町は比較的小さな町でもありますのでやりやすい面もあるかなと思います。

今日、稲美北中学校で音楽コンクールがありまして、合唱を聞かせていただきました。先週は、稲美中学校にも行かせていただきました。私は、10年以上合唱コンクールの審査をさせていただいているのですが、今年に関しては課題が残ったかなと思います。子ども達は一生懸命取り組んでいらっしゃるのですが、指導者の面での定着というところについて、少し課題があるのかなと私自身が肌で感じました。現在、吹奏楽で地域移行を前端的

にいろいろとなさっている先生がいらっしゃるかと思いますが、後藤委員がおっしゃられたように、まだまだ学校の先生が関わり、その間に入って作り上げていかないといけないのかなと思いました。

基本的には私も地域移行は賛成なんです、現状の稲美中学校、稲美北中学校の部活動から、地域クラブという形に変わろうとされている中で、指導者の定着が大事ではないかなということと、学校の先生方に入ってもらわないと、まだまだ難しいところがあるのではないかと感じました。地域移行は素晴らしいことだと思いますので、メリットとデメリットはあるかもしれませんが、進めていっていただけたらと思います。

北谷教育長

後藤委員の言われた課題、不安というのは、私も同じようなものを感じています。また、松田委員の方からもあった指導者の話では、稲美町内を見ても、すぐれた指導者になりうる方はたくさんおられると思います。なかなかその方々を学校が上手に取り入れることができていないという部分があります。

また、その連携を強めていくと同時に、その方々は技術面で優れているが、学校活動というのはそれだけではないというのが、後藤委員がまさしくおっしゃられていることで、そのことについては、やはり、その地域の方にも学んでもらう。そして成長していってもらう、そういうことが必要だと思いますし、それを事務局、教育委員会として支えていく。国は、大枠であったり予算の保証など、しっかりできていない部分があって、各市町はそれで振り回されているところがあります。稲美町モデルは、学校の先生方と協力していただける地域の方々が一緒になって、子ども達と一緒に成長していく。指導者としても成長していく。そういう地域連携・地域展開で進めていきたいと思いますし、そのように事務局も願っているところです。

中山町長

続いて、(5)「第4次稲美町教育振興基本計画策定について」の説明を事務局からお願いします。

瀧口人権教育課長 (資料説明省略)

中山町長

「第4次稲美町教育振興基本計画策定について」の説明がありました。これについて、ご意見があればお願いします。

北谷教育長

今年度4月に子ども基本法が制定されて、子ども型社会というのが言われています。そ

の中で作る新しい計画ですから、子ども達のアンケート、自由記述を見せていただいて、本当に私たちもそうだなと思うような意見が多いので、これをいかに基本計画の中で形として表すことができるかというのが、今回の計画を作っていく上での肝だと思っています。そういう意味で策定委員会の委員の皆さんも、そのことを十分理解した上で進めていただいています。

また、パブリックコメントでは広く住民の皆さんからの意見をいただきまして、稲美町の教育というのが将来、夢を感じる、未来を感じることができる、そういう計画であって欲しいと思っています。

中山町長

続いて、(6)「自由討議」に入らせていただきます。

それでは、まずは私から教育委員の皆様にお聞きしたいと思います。

令和6年度の新規事業として、第4次稲美町教育振興基本計画策定に取り組んでいますが、現状等を事務局から伺いましたが、ご意見等ありますか。

後藤教育委員

子どもの権利条約から当事者の意見を取り入れることは大変有意義なことであると考えます。今回、「学校教育に関する児童生徒アンケート」の結果が出ました。小学校・中学校とも上位の3つは同じ項目となりました。「教職員の資質向上」「健やかな体」「体験学習」です。「教職員の資質向上」においては、子どもたちの選択肢には「楽しい授業をしてくれる先生、あたたかく寄りそってくれる先生」と書かれています。子どもたちが先生に期待することがかなり大きいことが伺えます。「教職員の資質向上」に加え、「確かな学力」がつく授業、「主体的な学び」ができる授業を期待し、「分かる」「できる」喜びを味わいたい子どもたちがたくさんいると考えられます。「健やかな体」「体験学習」も合わせ、アンケートの結果が反映される計画を策定していきたいと考えています。

中山町長

第3次計画では、町の教育大綱として位置付けしておりましたが、第4次計画についても教育委員会と協議してまいりたいと考えております。

後藤教育委員

第3次計画では、令和2年2月13日の総合教育会議にて、新たな町の教育大綱として位置付けしております。

教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成27年度から首長に策定が義務付けられたものであり、教育の目標や施策の根本的な方向性を示すものです。総合教育会議において、首長と教育委員会が協議・調整を尽くし、首長が策定

するものとなっています。また、首長及び教育委員会は会議において調整のついた事項については、それぞれの結果を尊重する義務があります。

ただ、首長が総合教育会議において、教育委員会と協議・調整し、教育振興基本計画をもって大綱に代えると判断した場合は、別途、大綱を策定する必要はありません。

稲美町では、第3次計画をもって大綱に代える判断を令和2年2月13日の総合教育会議にて行いました。

今回の第4次計画も新たな町の教育大綱として位置付けされることを検討されますよう考えていますがいかがでしょうか。

中山町長

第4次計画も教育大綱として位置付けという方向性で考えたいと思っています。

本多教育委員

スケートボードパークを含めたアーバンスポーツ施設の設置を予定しているようですが、設置場所の検討や測量・設計業務の進捗状況はどのようになっていますか。

中山町長

こちらについては令和6年度で、例えばこういった場所でやるのがふさわしいのか、それから、実際にいろんな声を聞くという形で、スケートボード協会も稲美町にできております。愛好家の方もいらっしゃいますので、そういった方のご意見を実際に聞きながら、今、進めているところではあるのですが、詳しくは事務局からお願いします。

中澤スポーツ担当課長

現在、その設置場所の検討をしておるところですが、当初6カ所を候補としていました。具体的に言いますと、まず、文化の森の西側の調整池、2つ目は、文化の森の東側の階段付近、3つ目は、稲美中央公園の中にあるゲートボール場とテニスの壁打ちができるところ、4つ目は、いなみアクアプラザの前のスペース、5つ目は、加古大池公園の中、6つ目は、天満大池公園の中を候補地としていました。スケートボード協会の方とも協議しながら検討した結果、現在最有力になっているのは、ゲートボール場とテニスの壁打ちとして使っているところ、または文化の森の東側の階段の辺りという2カ所に絞られている状況でございます。

スケートボードパークについては、一番問題になってくるのが騒音の問題です。近隣の方からうるさいということになってしまうと、せっかく作ったものが使えない、使いづらいものになってしまいますので、近々仮設のセクションというか、スケートボードの仮設のパークみたいなものを作るのと併せてバスケットのゴールを置いてそのあたりの騒音の問題を近隣住民の方に確認していただく意味でも、社会実験をさせていただいて、場所の

最終選考をしようかというところまで進んでおるところです。

本多教育委員

実際に使う人の意見を取り入れて、若い方がたくさん集まるような施設になったらいいなと思います。

先ほど騒音のことをおっしゃいましたが、難しい問題だと思います。若い方の活気がある声というのは、騒音にもとれますが、何か町を元気にしてくれるのではないかなと感じております。

他市町から、他県から人が集まるような場所になるように、努めていただきたいと思います。

中山町長

アンケートにも、スケートボードパークが欲しいとか、バスケットボールがあつたらいいねという声をたくさんいただきましたので、子ども達の切実な願いということで、それが叶えられることによって、もっと活気も出てくると思いますので、ぜひそういう方向で整備を進めていきたいと思います。

本多教育委員

スポーツ施設の整備については、いなみ野体育センターの空調設備の整備の進捗状況はどのようになっていますか。

中澤スポーツ担当課長

いなみ野体育センターは、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、ショートテニスなど、様々な種目で使われているので、なるべく競技に影響が少ない空調方式で、整備に係るインシャルコスト、維持管理費や光熱水費といったランニングコストを総合的に判断して最適な空調方式を検討したいと考えています。

中山町長

小・中学校とどちらが先かという問題もあるのですが、今スポーツをしている方もたくさんいらっしゃるので、まずは体育センターと方針を決め、やっていきたいと思っていますので、この方法が一番良いと決まれば、すぐに整備をしたいと考えています。今年の夏も暑かったので、早急に整備をして参りたいと思います。

本多教育委員

いなみ野体育センターの空調設備については、最適な空調の方式について検討するために業務委託しているとのことでしたが、小・中学校の体育館の空調設備設置についてはど

のような状況ですか、また、特に幼稚園のバリアフリー化への対応はどのようにされていますか。

中山町長

今年の夏も本当に暑かったです。多分これから夏はずっとこんな感じだと思いますので、まずは子ども達の健康面も気になります。それから、能登半島地震もありましたし、小・中学校はもちろん体育センターもそうですが、小・中学校の体育館が避難所になりますので、町としてはできるだけ早くやっていきたいと考えているところです。財政面でも国からも支援いただいていますし、1つずつ順番にやっていきたいと思っています。

それから、環境整備で、例えば幼稚園の子ども達だったり、体に不自由のある児童生徒が、快適に学校または幼稚園で、毎日友だちと一緒に過ごす上では、今、エレベーターの設置も進めていますし、幼稚園においても、そのお子さんができることは頑張っていたいて、助けなきゃいけない部分は助けられる、そういうふうに進めていきたいと思っています。現場の教育委員会でも一生懸命考えて進めているところです。

松田教育委員

稲美町立幼稚園の今後のあり方について、検討委員会の開催状況はどうなっていますか。どのようなことが協議されていますか。

沼田教育政策部長

幼稚園あり方検討委員会を令和5年度から行っておりまして、これまでに5回開催をしています。

それぞれの会議で、課題などを絞り、検討していただいています。

1回目は、各園の課題について、2回目は、異年齢教育について、3回目は、特別支援教育について、4回目は、在園児の保護者のアンケートの結果を受けまして、要望が高かった幼稚園教育について、5回目は、3歳児教育の実施、そして園の統廃合、この辺りも踏み込んで協議をしていただいております。

異年齢教育につきましては、実際、いくつかの幼稚園で異年齢教育をしておりますが、実施の目安となる人数、どれぐらい下回れば、実施していこうという話もしていただいております。方向性としては、1学年6名未満となった場合、ただ、3歳児につきましては、他の年齢の子と異年齢教育するのは、なかなか難しいというところが、実際に異年齢教育をしていく中でわかってきました。異年齢教育を実施する場合は、園児数にかかわらず、担任に加えて、特別支援教育の指導補助員を設けておりますが、そこもやはり複数名配置することが大事なのではないかと、意見として出ております。

次に特別支援教育につきましては、指導補助員を置いているのですが、質の向上とかユニバーサルのこともあわせた充実が必要ではないかというご意見をいただいております。

次に保護者アンケートをしましたが、その中で、幼稚園教育の実施についてご意見をいただいております。また、幼稚園の給食については、傾向としてやはり求められているということが挙がってきました。

次に3歳児教育、これについては、加古幼稚園と天満東幼稚園では、現状では行っておりませんが、今後の園児数の見込みや施設の状況を踏まえ、検討をいただいております。天満幼稚園で3歳児教育をする際は、土地を購入して園舎の増築も行い、また園庭も広げております。また既存部分についても大規模改造を行っていくということで、見ていただくとよくわかる通り天満幼稚園は施設も広くなりました。建物も新しくなり、増築もしているということで、良好な環境であるということで見えていただいております。その上で、天満東幼稚園、3歳児教育を実施できるかどうかということについても、近隣の土地の取得ができるかどうかという課題があります。

最後に園の統廃合、休園ということも含めて検討いただいております。実際、幼児教育と保育が、5、6年前の無償化の流れの中で、やはり長い時間預かってもらえる、給食が出るというようなところで、やはりニーズというのはいろいろ変わってきておりますので、そのあたりも踏まえつつなのですが、天満東幼稚園の3歳児教育を実施するかその辺りによって目安となる人数も変わってくるだろうという見方も必要であろうということがございます。具体的には、天満東幼稚園が3歳児教育を実施する場合に、4～5歳児の減によって集団教育を行う上で、ある程度人数が必要だろうと考える基準を下回ってしまった場合であるとか、3歳児が多数いる場合は統廃合を見送るとか、1つの園全体で9名以下の場合には統廃合も検討していく必要があるのではといったご意見でした。

課題として出てきたことをそれぞれの回で検討していったということでございます。

#### 中山町長

本当に、子どもが減っている中でありながら、保育のニーズは高まっていて、幼稚園に3歳児教育を入れましたし、異年齢教育もすべてではないですがやっているところです。人数に対応していくというところで、もう一方では特別支援が必要な子どもも増えていきますので、実は幼稚園に対する期待もすごく高まっています。幼稚園、保育園どちらも存在意義があると思いますので、どちらのメリットも増やしながら進めていきたいところです。

近隣の市町では、幼稚園の統廃合も進んでいるところですので、稲美町としても、そろそろ具体的な指針を考えていかなければいけないと思っています。

アンケートを取ればたくさん出てくるご意見の一つが、ぜひ幼稚園でも稲美町の安全・安心のおいしい給食をとというお声です。1つひとつ課題を整理することによって、園児数も増えていけばいいなと思いますし、ぜひ、実現させていきたいと思っています。

#### 松田教育委員

今、天満東小学校校区の人口が増えてくることが見込まれていると思いますので、天満

東幼稚園での3歳児の教育の実施については、早期に実現していただけるよう検討を進めていただきたいと思います。幼稚園給食ということでは、私の子どもも今幼稚園に通わせていまして、そちらでも給食があるんですが、給食を食べない子なので、私は毎朝お弁当を作っているんですが、他のお母様方は、給食をすごく喜んでいらっしゃいますので、それも実現されると良いと思います。

統廃合については、一時的な人数で、性急な判断をされないように気を付けていただいて、長期的に見ると園児が増えたりすることもあるかと思しますので、そういうことも踏まえて判断していただきたいと思います。少人数であるからこそ、できる教育があるかと思しますので、少人数制を、メリットと考えて魅力的な園の活動ができるよう町として協力していただきたいと思います。

#### 高田教育委員

私は自治会長もしておりますが、9月の終わりに、自治会の広場の交流会があつて、初めての委員の人に付き添って体育センターにゲームの道具を借りに行ったんです。その時に思い出したのが、稲美町の体育施設の予約をインターネットを通じてやろうというのが、確か令和5年度の事業だったと思います。それが令和6年度になって、まだ始まっていないということで、おそらくいろんな問題があったかと思うんですが、そこら辺の進捗状況を教えていただきたいと思います。

#### 中嶋文化の森課長

時間がかかっており申し訳ございません。これにつきましては、文化施設、生涯学習課、文化の森課、文化会館、公民館この複数の施設の予約システムを開発しているため、大変時間がかかっております。現在、業者に委託して施設予約システムの構築を行っています。9月末の状況としては、令和7年2月頃から現在の利用者登録カードをインターネット予約に対応したものに切替を行い、令和7年3月頃からインターネット予約の受付を開始したいと考えています。

#### 中山町長

遅れている事に関しまして、本当に申し訳ございません。ただ、よりよいシステムを構築しているところですので、もうしばらくお待ちいただきたいと思います。

#### 高田教育委員

インターネット予約という言葉だけをとりえると、簡単にスムーズにやれるというイメージが言葉からはあるのですが、私もスマホ決済をしようと試みましたが、何かうまくいかない。ID番号とかパスワードとか、自分の名前を入れても、半角の問題とかいろいろあつて、結局諦めて妻にやってもらいました。特に体育センターは、若い人たちも利用さ



れるでしょうが、私みたいな70歳以上の人間も予約するかと思いますので、できるだけ簡単に登録することができるようにお願いしたいと思います。

中山町長

若い人は問題ないと思いますが、そのあたりは、体育センターの窓口で、お手伝いさせていただくような支援をさせていただきたいと思います。

後藤教育委員

令和7年度は、町制施行70周年となります。10年の節目となる年には、これまでもさまざまな記念事業が行われてきましたが、来年度に向けた記念事業等の検討は進んでいますか。

中山町長

町としても、70周年は大切な年だと思っています。そしてまちづくりの面からも、芸術文化をより振興する上でも、いい年にしたいと思っていますところでは。

住民の皆さんからたくさんいろんなアイデアが出ていますので、それを中心にやっていきたいと思っています。

70周年について、事務局には芸術文化に関する提案は出てきていますでしょうか。

中嶋文化の森課長

文化の森課においては、コスモホールでコンサート等の自主事業を開催していますが、周年事業にふさわしいものを選定しているところです。

「宝くじまちの音楽会」や「ひょうごふれあいの祭典」など、県の文化事業の補助などに申し込みをしています。

後藤教育委員

70年ということで、みんなでお祝いをできるといいなと思いますし、同時に、町の歩みを振り返るといいのではないかと思います。協議事項での説明にもあったように、稲美町史編さん事業では、これまでの先人の歩みに感謝することとなります。

アーバンスポーツ(スケートボードパーク)施設の設置に関しては、若い人々の活躍を身近で見られる、育てられるきっかけとなることを期待しています。

これらをはじめとして、令和7年度が住民みんなで祝えるような年となるよう、気運を盛り上げていただきたいと思います。

中山町長

ぜひ町史編さんでも、皆さん向けの講座ができたらいいなと思いますし、ちょうどスケ

ートボードパークの竣工式、70周年、同じ年になると思いますので、そこで皆さんと一緒に  
にお祝いできたらと思います。

大変有意義な意見交換ができました。ありがとうございました。

それでは、次第4.その他に移りたいと思います。(1)「次回の開催予定について」の説明  
を事務局からお願いします。

井上経営政策部長

今後の会議については、冒頭にも申し上げましたとおり、今年度にあと1回の開催を予  
定しております。また、重大事件等の協議が必要な事案が発生した場合は、随時、開催す  
ることとしております。

なお、例年2月に会議を開催しておりますが、次回の開催日程につきましては、これま  
でと同様に2月に開催させていただくかどうかを事務局で調整させていただきまして、適  
切な時期に開催したいと考えております。正式に日程等が決まりましたら、皆様にお知ら  
せさせていただきます。

中山町長

次回の会議の開催についての説明がありました。これについて、ご意見があればお願い  
します。

それでは、次回の会議は、事務局で調整のうえ開催することといたします。

その他、委員の皆様方や事務局を含めて、何かありましたらお願いします。

それでは、以上で稲美町総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。